

# AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会／財団法人日本自然保護協会／赤谷森林ふれあい推進センター

## 赤谷の森だより

2013.09.01

vol. 23



赤谷の森三二写真館!

今回のテーマ「赤谷川上流部」



赤谷川本流の上流部に水量豊かな溪流環境があります。(溪流調査時に撮影 H25.7.18)

「トピックス」

赤谷プロジェクト地域協議会新会長

河合 進

赤谷の森でわかったこと

「打たれ強い水生昆虫」

愛知工業大学教授  
内田 臣一

# 赤谷の森でわかったこと



愛知工業大学 工学部 都市環境学科 教授  
内田 臣一

## 打たれ強い水生昆虫

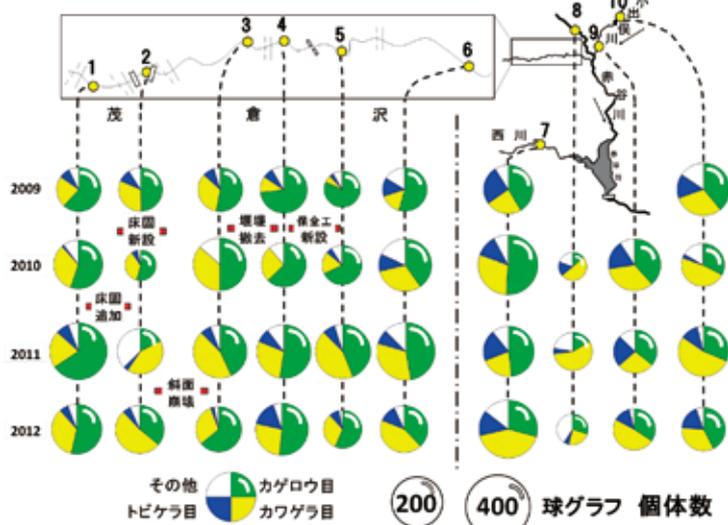
赤谷プロジェクトの代表的な事業のひとつとして、茂倉沢で治山ダムの中央部を撤去するなどして溪流の環境を復元しようとする試みが進んでいます。

ダムが撤去されれば、イワナやヤマメなどの魚をはじめ色々な動物がダムにじゃまされることなく、茂倉沢の上流と下流を自由に移動できるようになります。

しかし、治山ダムを撤去したら、ダムの上流にたまっていた土砂が激しく流れて、魚などの餌となつている水生昆虫がいなくなってしまうかもしれません。

そこで、私たちの研究室では、ダム撤去前の2009年から2012年まで毎年3月に、茂倉沢で水生昆虫を主とした底生動物を調べてみました。結果は下のグラフのとおりです。

茂倉沢とその周辺における水生昆虫を主とした底生動物の個体数(のべ120分採集)



赤谷の森を調べよう!



ムタオ ムタコ

※無多子沢に住んでいるカワガラス

増減はあったものの、撤去などの工事をして、水生昆虫は決していなくなることはありませんでした。ところで、別の調査の結果から、茂倉沢ではこの期間に、かなり激しく土砂が流れたことがわかっていました。つまり、水生昆虫の多くは、土砂が流れて川底の石がひっくり返ったり砂で洗われたりするのに耐えたのです。ちっぽけな水生昆虫ですが、人間が思っているほどヤワではなく、打たれ強いということがわかりました。

さて、調査結果をさらに詳しく見ていくと(データは割愛)、土砂の流れを嫌うと言われている造網型トビケラ類(石の間に巣を作る型)が少ないとき、つまりかなり激しく土砂が動いたと考えられるとき、逆に多くなる虫がいました。コウノヒメカワゲラ(左の写真)がその代表例で、この種類は、打たれ強い水生昆虫の中でも特に打たれ強い虫といえるでしょう。



打たれ強い水生昆虫の代表?  
コウノヒメカワゲラ  
(体長約1.5 cm)



赤谷プロジェクト地域協議会  
河合 進

初秋の候 皆様様益々ご清祥の事と拝察いたします。

さて この度、岡村興太郎氏の後任として、赤谷プロジェクト地域協議会会長に就任いたしました河合進でございます。非常に重大な役で責任の重さを感じております。

代表幹事の林泉氏の全面的なバックアップと行政側からの事務的なお手伝いをいただき、引き受けいたしました。

(財)日本自然保護協会、林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター、そして、関係するすべての方々によるしくご指導くださいますよう、お願い申し上げます。

赤谷プロジェクトが開始されてから10年が経過しましたが、肝心の地元理解をなかなか得られないのが最大の課題であります。

それはなぜか？簡単です。赤谷プロジェクトがあまりにも専門家集団の研究の場であり、少し近寄りづらい存在だからです。現場では素晴らしいプロジェクトが展開されています。しかし、30～50年にわたる生物多様性の復元、持続的な地域づくりによる人と自然との関係の見直しという壮大なプロジェクトであるがゆえに、あ

まりなじまないで今日まで来たということではないでしょうか。一方、プロジェクトになぜこの地が指定されたのかを地元民に理解されないと「なぜ」は解決しないと思います。地域自然環境の豊かさの指標であるツキノフグマ、イヌワシ、クマタカなどの重要な生息地が、猿ヶ京温泉のすぐ奥地に展開しているのです。まさに観光地として他に類をみない素晴らしい資源を有しているのです。

かつてこの地に川古ダム計画が具現化されようとしていました。しかし、突然事業の中止が発表され、大きな活性化を期待していた地元民は奈落の底に突き落とされました。地元民にとって思い入れのある幻のダム計画に代わる赤谷プロジェクトが理解されにくいのは、「なぜ」の説明責任が不足していたのではないのでしょうか。赤谷の森は、教育環境の場や水源、温泉源などの自然資源を供給してくれていますが、これは観光地の基盤となるものです。赤谷プロジェクトには、どこの観光地にもまねの出来ない観光地づくりのチャンスがあるのです。

このプロジェクトを活かすことこそが、みなかみ町の振興に大きく貢献するものと確信いたします。地域の核となる情報施設が早急に必要であります。そこを情報拠点に、地域の人々やサポーターの人たちの知見、また現地の体験状況などを発信できれば地元民に理解され、多くの観光客の受け入れが実現できるのではないのでしょうか。

## 赤谷プロジェクトに関する イベント予定

### 赤谷プロジェクト10周年記念フィールドセミナー

- 「自然林を復元する」 9月8日 (N-J)
- 「溪流環境を復元する」 10月6日 (N-J)
- 「猛禽類を指標とした森林管理」 12月8日 (N-J)

### akaya カフェ ～お茶を片手に専門家との語り合い～

- 谷川連峰のささづばら (亀山章) 9月7日 (N-J)
- 赤谷川の河原にて (中井達郎) 10月5日 (N-J)
- イヌワシが谷川連峰にくらすワケ (仮) (山崎亨) 12月7日 (N-J)

### みなかみ町オンパク参加

- カスタネットを作ろう 9月27日・10月14日 (N-J)
- ロケットリーフ大会 9月28日 (赤セ)
- ネイチャークラフト教室 9月29日 (赤セ)
- センカメ仙人と行く赤谷の森 10月5日 (赤谷の日: 赤セ)
- ニコンの講師カメラ教室 10月20日 (N-J)

### 自然林100年モニタリング調査会

9月28日 (N-J)

### 赤谷の森自然散策 (旧三国街道)

錦秋に染まる旧三国街道 10月27日 (赤セ)  
いきもの村等で雪遊び (予定) 2月8日 (赤セ)

※N-J: 日本自然保護協会、赤セ: 赤谷森林ふれあい推進センター  
イベントの詳細等は、準備ができ次第赤セHPで掲載致します。

## お知らせ

赤谷プロジェクト地域協議会の役員が改選 H25年3月3日

会長 岡村興太郎 → 河合 進  
事務局長 安田 剛士 → 林 泉 (代表幹事兼務)

関東森林管理局の人事異動 H25年7月1日

計画保全部長 池田 直弥 → 寺川 仁



色々な活動をしているよ!

## 赤谷プロジェクトの活動

# トピックス

### 国有林を協働管理「赤谷プロジェクト」

国有林の赤谷の森では、地域住民と協働する「赤谷プロジェクト」地域協議会、林野庁関東森林管理署、日本自然保護協会の3つの中核団体が協働して、生態多様性の保全と持続可能な森林づくりを進めています。国有林を協働で管理していることとするこの取り組みは日本初のものです。この「赤谷プロジェクト」では、協議会や専門家等のモニタリング調査、人工林から自然林への適正な伐採管理の導入、環境教育活動などに取り組んでいます。



H25.3月

群馬の魅力をもとめた冊子「ぐんまがいちばん!」に赤谷プロジェクトの取組みが掲載されました。



H25.4.13~14

NPO森づくりフォーラム主催による「国有林における生物多様性の復元に向けた森づくりの見学会が開催されました。



H25.5.1

上毛高原駅に赤谷プロジェクトブースが登場しました。(展示期間 5/1~31)



H25.5.27

みなかみ町との共催により、旧三国街道で、赤谷の森自然散策を開催しました。



H25.5月

センカメ仙人からの報告! いきもの村にキツネの親子が帰ってきました。



H25.7.6

第4回全国源流サミットinみなかみ町の特別報告で赤谷プロジェクトを紹介しました。



H25.7.22

新治小学校サマースクールで、プログラム「自然の不思議と恵み探し」を提供しました。



H25.7.29

「デサントキッズスポーツ教室2013inみなかみ」が開催され、プログラム「森の探検ウォークラリー」を提供しました。



H25.7.30

ニコプラザ仙台でセミナー「赤谷ノートを使ってみよう!」を開催しました。

## 赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取り組みです。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方) の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生きものの調査・研究、環境教育、研修の受け入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

## 赤谷プロジェクトサポーター募集!



(たくさんの笑顔がまっています (^o^)/)

赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先  
日本自然保護協会：出島・藤田

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-66-0888

代表幹事 林 泉

メールアドレス kawafuru0888@gmail.com

(財) 日本自然保護協会

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 出島 誠一

http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html  
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局  
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 廣橋 潤

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\_fc/index.html  
メールアドレス akaya\_postmaster@rinya.maff.go.jp